

【NEWS RELEASE】

2022年2月28日

各 位

株式会社三井住友銀行

カンロ株式会社に対する「ESG/SDGs評価」に基づく
コミットメントライン・シンジケーションを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、カンロ株式会社（代表取締役社長：三須 和泰）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくコミットメントライン・シンジケーションを組成いたしました。

本件は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、カンロ株式会社に対して行った「ESG/SDGs評価」の趣旨に賛同いただいた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回対象となりました、カンロ株式会社の取組に対する評価結果は、環境側面（E）・社会側面（S）およびガバナンス側面（G）すべてにおいて高い水準であると判断され、サステナビリティに向けた企業経営において、優れたESG（※1）・SDGs（※2）の取組と情報開示を実施されているとの評価（総合評価ランク AA）取得となりました。

特に、ESGおよびSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

- E：自社の事業活動に伴う主な環境負荷として、Scope1～3のCO2排出量を把握し、その削減に向けた数値目標を設定。製品を通じた環境負荷削減の取組として、バイオマスインキの採用や、主力製品の包材に石油系原料の使用を削減したりサイクル材料を採用する等の取組を進めていること。
- S：食品安全システムの国際規格「FSSC22000」を全工場で取得する等、食の安全・安心に向けた取組を徹底していること。着色料や香料、合成甘味料等を使用しない商品づくりを進めるほか、動物性由来ゼラチン不使用の商品を開発する等、消費者の多様性にも配慮していること。
- G：2030年に向けたビジョン「Kanro Vision 2030」における非財務面のKPIとして、「CO2排出量30%削減（2019年度比）」「糖に対する正しい知識の普及活動を1,500万人に」等を設定し、事業活動を通じて社会課題の解決に寄与する姿勢を示していること。マテリアリティ（糖の価値創造、事業を通じた環境負荷削減、食の安全・安心、人権・ダイバーシティの推進、組織統治）を特定し、各テーマについて具体的なKPIを策定していること。

SDGs達成に向けた取組と情報開示

SDGsへの貢献に向けて、「食で健やかな生活」を商品開発の軸にすることや、地球環境の保護に向けて素材メーカーと包材の共同開発等を進めることで、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標12「つくる責任 つかう責任」等に貢献する方針を策定していること。また、ホームページや統合報告書等で、事業活動とSDGsの関連性を示すとともに、事業戦略によって貢献するSDGsの目標を明示していること。



朝日工場 太陽光発電



屋内ハーブ園「カンロファーム」では障がいのある方や、シニア人材が活躍中



カンロ株式会社 オフィシャルサイト：<https://www.kanro.co.jp/>

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。